



This is our Communication on Progress
in implementing the principles of the
United Nations Global Compact.
We welcome feedback on its contents.

AMITA
アマタホールディングス株式会社

アマタホールディングス株式会社 Communication on Progress

2009 年度

*対象期間: 2009年1月~2009年12月まで

連絡先

アマタホールディングス株式会社 カンパニーデザイン室

Email: hitou@amita-net.co.jp 電話:03-5215-8274 Fax:03-5215-8278

P 1/8

会社概要

会社名: アマタホールディングス株式会社
所在地: 東京都千代田区三番町 28 番地
従業員数: 208 名(連結)

会社紹介(アマタグループ):

アマタグループ(アマタホールディングス株式会社とその関連会社)は、持続可能社会の実現を目指し、循環型システムを創るリーディング・カンパニー・グループ。

1977年、アマタ株式会社の前身であるスミエイト興産株式会社を創立、2010年持株会社制に移行し、アマタホールディングス株式会社を設立した。

創立以来、多種多様な発生品(廃棄物)から「調合」という技術によってセメント原料や石炭代替燃料、金属原料といった地上資源を製造する資源リサイクルに取り組み続けている。

企業の環境部門の業務が多様化するにつれて、企業の環境課題を解決するコンサルティング・アウトソーシング業務を拡大してきた。

近年は、農林水産業などのコンサルティングや、手入れの行き届かない森林に乳牛を放牧することによって森林管理の労働力を補う「森林酪農」など、自然資本を活用した地域活性化にも力を入れている。

地上資源事業、環境ソリューション事業、自然産業創出事業という3つの事業を展開。

地上資源事業: 廃棄物を独自の技術により再資源化し、販売、リサイクルのオペレーションを手がける。

環境ソリューション事業: 一次産業から三次産業まで、幅広い分野でソリューションを提供する。

自然産業創出事業: 地域が持つ自然の価値を高め、持続可能な地域づくりを支援する。

P 2/8

トップステイトメント

弊社は2002年にグローバル・コンパクトに加盟しました。
グローバル・コンパクトおよびその10原則を支持し、企業活動を進めてまいります。

本年度の活動としては、本業である環境事業が大きく伸張しました。
廃棄物(アマタグループでは発生品と呼んでいます)の再資源化事業の拡大、
自然産業創出事業では、関東にも自然放牧型の「森林ノ牧場」をオープンし、
事業を通じた持続可能な社会の実現に向けて尽力しています。
グローバル・コンパクトには、ジャパンネットワークのボード企業として参加し、
グローバル・コンパクトの理念や活動をよりよいものとするよう働きかけを続
けています。社員も2名担当をつけ、ジャパンネットワークの分科会活動にも
積極的に関わっています。

アマタホールディングス株式会社

代表取締役会長兼社長

熊野 英介

2010年5月12日

グローバル・コンパクト 10 原則

| | |
|------|--|
| 人権 | 企業は、 原則1: 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。 |
| 労働基準 | 企業は、 原則3: 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。 |
| 環境 | 企業は、 原則7: 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則9: 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。 |
| 腐敗防止 | 企業は、 原則10: 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。 |

P 3/8

人権分野に関する活動報告

| 本年度の活動目標・内容 | 結果・評価 | 来年度の活動目標・内容 |
|--|---|---|
| <p>活動目標</p> <p>■京丹後・那須などで行っている「森林ノ牧場」での事業を通して、障がい者の方が働く機会をつくりだす。</p> <p>その他の実績</p> <p>■国連の STAND UP キャンペーンに賛同し、全社で写真を撮影して参加した。</p> | <p>◎ 「森林ノ牧場 京丹後」にて障がい者の方を1名雇用。 「森林ノ牧場 那須」にて、(株)NTTデータの特例子会社(株)NTTデータだいちと協力し、障がい者の方を2名雇用することができた。</p> <p>◎ 全国の拠点も合わせ、194名が参加。貧困撲滅への啓発活動を行った。</p> | <p>■引き続き「森林ノ牧場」での障がい者の方の雇用を継続し、障がい者の方の働く機会を増加させる。</p> |

P 4/8

労働基準分野に関する活動報告

| 本年度の活動目標・内容 | 評価 | 来年度の活動目標・内容 |
|---|--|---|
| <p>活動目標</p> <p>■メンタルヘルスに関する研修を引き続き行い、メンタルヘルスに関する従業員の知識と対応技術の向上を実現することで、従業員の心の不調の未然防止を図ること。</p> <p>■従業員やその家族が心身の不調、職場での悩み、育児・介護など家族の問題をウェブや電話でいつでも相談できる「サポートホットライン」を設置し、従業員の健康を守ること。</p> <p>その他の実績</p> <p>■女性社員の就業環境改善を話し合うグループを作り、定期的にミーティングを実施、アイデアを実現化すべく活動を行った。</p> <p>■余った有給休暇を、育児などで休まざるを得ない社員に振り分ける制度を作り、運用を開始した。</p> | <p>◎ 考課者研修にて役職者に対し、メンタルヘルスの研修を実施した。</p> <p>○ 「サポートホットライン」を設置して運用したが、相談件数は1件に留まった。</p> <p>◎ グループの立ち上げ、ミーティングの定期開催、提案の実現化を達成できた。</p> <p>◎ 上記ミーティングから成された提案が実現し、社内制度になった。</p> | <p>■メンタルヘルスに関する研修を引き続き行い、メンタルヘルスに関する従業員一人ひとりの対応技術の向上を実現し、従業員の心の不調に対する現場の対応能力を向上させること。</p> <p>■従業員の心身の不調があった場合、同僚などに相談され、担当部署まで情報共有されるような社内風土をつくるのが予防策として効果的である。引き続き社内コミュニケーションの活性化を通じて未然に対応できる取り組みを行っていく。</p> <p>■女性社員の就業環境改善を話し合うミーティングを引き続き実施し、就業環境の改善から社員教育の向上まで含めて議論し、提案を行っていく。</p> |

P 5/8

環境分野に関する活動報告

| 本年度の活動目標・内容 | 評価 | 来年度の活動目標・内容 |
|--|--|---|
| <p>■FSC 森林認証や MSC 認証のさらなる普及を目指すと同時に、今まで確立したこれらサービスのノウハウを生かし、持続可能な社会の実現につながる新たな認証サービスをより使いやすい形で社会に提供していく。</p> <p>■自然放牧型の「森林ノ牧場」を関東圏にも拡大をはかり、新たな森林価値づくりの取り組みを広げます。2009 年内に、森林酪農を実施している地域を 2 箇所へ、エリアの合計面積を 13 ヘクタールへと拡大。 また、「森林ノ牧場」を使い、森林空間や、森林と農業との循環を生かした、環境教育を展開していく。</p> <p>■再資源化施設「姫路循環資源製造所」と「茨城循環資源製造所」で再資源化できる廃棄物の量の拡充、受け入れ基準の拡大につとめ、循環型社会の形成に貢献する。</p> <p>■環境分野の専門性を活かし、全国の企業の環境担当者に対して、環境管理業務や環境関</p> | <p>○ 2009 年実績としては、FSC FM 認証が想定を上回り、3 件実施することができた。</p> <p>○ 2009 年 7 月に「森林ノ牧場 那須」をオープン。京丹後にあった牧場と合わせエリアを 13 ヘクタールへと拡大。</p> <p>◎ 「姫路循環資源製造所」では破砕機を導入。受け入れ可能な廃棄物を拡大することができた。</p> <p>◎ 環境管理業務支援のサービスを拡充し、環境管理業務の効率</p> | <p>■2010 年 4 月に、(株)アマタ環境認証研究所を新設分割により設立。環境認証の審査および研究・開発を実施するだけでなく、積極的な情報発信によりその認証制度の意義を社会に広く伝え、普及に努めていく。</p> <p>■「森林ノ牧場 那須」の施設を拠点として、近辺の放置林にも自然放牧エリアを拡大し、適切な森林管理方法の探究を進めていく。また、森林空間の利用や環境教育の開発を引き続き行っていく。</p> <p>■再資源化施設を、姫路、茨城に加え川崎、北九州にもオープンさせ、廃棄物の受け入れ可能地域を太平洋ベルト地帯を中心に拡大し、循環型社会の形成にさらに寄与する。</p> <p>■引き続き企業の環境管理業務の支援サービスを拡充し、各企業の廃棄物の適正な管理や環境関連法の遵守、コンプライアンスの徹底等を促進</p> |

P 6/8

| | | |
|---|--|---|
| <p>連法の改正などについて、ウェブサイト・メールマガジン・セミナーなどを活用した啓発・情報提供を行う。</p> <p>2009年以内に、メールマガジンによる情報提供を行っている環境担当者の人数を6,000名に引き上げることを目標とする。</p> | <p>化やコンプライアンスの徹底化に貢献。メールマガジンの情報提供者は2009年以内に6,800名を超えた。</p> | <p>することで、社会全体の環境問題の拡大を防いでいく。</p> <p>■地域の森林管理をファンドの手法を用いて行い、木材製品の製造・流通を行うなど、新しい仕組みによって森林の適正管理に取り組む。持続可能な森林経営に貢献する。</p> |
|---|--|---|

| 腐敗防止分野に関する活動報告 | | |
|---|--|---|
| 本年度の活動目標・内容 | 評価 | 来年度の活動目標・内容 |
| <p>■上場以来継続している取り組みとして、今年も反社会的勢力との取引を防止するため、取引開始前に反社会的勢力との関連有無の調査を必ず行うなど、スクリーニング調査を実施する。</p> | <p>◎取引先の調査を徹底して行った。また、特暴連に加盟し、反社会勢力への対策を講じた。</p> | <p>■反社会勢力との取引等防止のための調査・スクリーニングを引き続き行っていく。</p> <p>■従業員の人としての基本姿勢や企業人としての基本行動を「アマタ行動規範」として定め、全従業員が社員証と一緒に常に携帯し、行動規範の徹底に務める。</p> |

| このコミュニケーション・オン・プログレスの報告内容をどのようにステークホルダーに伝えますか。 |
|--|
| <p>グローバル・コンパクトのウェブ、自社のウェブに掲載する。</p> |